

Interview #08



*2026年3月インタビュー

2026年3月所属：情報学研究科 複雑系科学専攻
(名古屋大学融合フロンティアフェロー)

2026年4月所属：株式会社アルトナー

情報学研究科 野神 亮介 さん

■ これまでやってきた研究の概要を教えてください。

私は物理学、特に量子力学の研究をしていました。量子力学というのは、ミクロな世界の物理現象を記述する理論で、私たちが普段見ているマクロな世界の古典力学とは大きく異なる性質を持っています。

その中でも、量子力学と古典的な「局所実在論」との違いに興味を持っていて、特に物理量の相関に着目して研究していました。量子力学では、古典的な理論では取り得ない相関が現れるので、「どのような相関が取り得るのか」ということを考えていました。

所属は情報学研究科なんですけど、内容としては理学系の物理に近い研究をしていました。最近では量子情報理論との関係も強くて、そのあたりとも関わりがある分野です。

■ この春からはどういう仕事をする予定ですか？

この春からは、技術者を派遣している会社に就職して、ソフトウェアエンジニアとして働くことになっています。

■ 就活の流れや、キャリアに関する考え方は？

入社する会社は、企業と博士人材の交流会で知った会社でした。そのときに声をかけていただいたのがきっかけで、説明会に参加したりして、そのまま選考に進みました。

就職活動は、その交流会で知った企業に絞って進めていたので、受けたのは3社くらいでした。結果的に絞って進める形になったので、研究と並行しても、就活が忙しくて研究ができないということはほとんどなかったです。

また、プログラミングのスキルが特別に評価されたというよりは、研究活動を通して身につけた、問題を立てて解決する力のようなところを評価していただいたのかなと思っています。

■ キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

やはり、研究会や学会に参加して発表する経験は良かったなと思っています。何度かそういう機会があったんですけど、その中で、自分の研究をどう分かりやすく伝えるかという練習になりましたし、人前で話すこと自体の練習にもなりました。そういう経験は、研究を続ける上だけでなく、これから社会に出てからも役に立つのではないかなと思っています。

また、基本的に在学中はほとんどの時間を研究に使っていたので、そういう意味でも研究にしっかり取り組んだ経験が大きかったと思います。

■ 就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

特にプログラミングスキルがあるわけではなかったんですけど、それでも大丈夫だと言っていたら、博士課程で身につけるような力を重視しているということ、担当の方がしっかり伝えてくれました。そのおかげで、自分としても安心して選択することができたと思います。

■ 後輩たちにエールをお願いします。

博士進学というのは、決断として勇気がいることだと思うんですけど、私は進学してよかったなと思っています。博士号を取得するというのは、その分野で一人前として認められたということだと感じていて、それは自分にとってすごく自信になるものだと思いますし、誇りにもなると思います。

研究は楽しい部分もあるんですけど、基本的には大部分の時間は結果が出ない時間で、辛抱する時間でもあります。そういう意味では楽ではないんですけど、結果が出て研究が進んだときはすごく嬉しいです。

やりたいことがあるのであれば、勇気を持って一歩踏み出してもらえたらと思います。進学した先には、また違った世界が見えてくると思います。